

【件名】

台北市中山区・ソウル特別市陽川区との交流と海外都市交流の今後の方向性について

【要旨】（目的・内容・対象・時期・今後の方向等）

標記の件について、以下のとおり報告する。

1 台北市中山区による来訪

（1）目的

中野区内で開催される「アニメ・マンガフェス2025」へ中山区区長らが来訪することを契機として、中野のまちや文化に触れてもらうとともに、今後の交流の発展に向けた情報・意見交換を行う。

（2）中野区への訪問日程

2025年11月14日（金）・15日（土）

（3）来訪者

中山区区長、中山区人文課課長、同秘書室課員、通訳 計4名

（4）内容

11月14日（金）

- ・中野区役所視察
- ・中野区議会訪問
- ・中野ブロードウェイ見学及び歓迎宴（日台友好促進中野区議会議員連盟）

11月15日（土）

- ・アニメ・マンガフェス2025視察
- ・友好交流協力覚書締結式及び中野区関係者との懇談
- ・アニメ事業者等を交えた懇談
- ・歓迎食事会

（5）友好交流協力覚書の締結

両区の今後の共栄及び友好関係を積極的に推進するため、協力覚書を締結した。主な内容は以下のとおり。

- ・民間交流、アニメをはじめとした文化芸術、食文化・グルメ、学び、スポーツ、健康、子どもの交流活動等の幅広い分野における交流を推進する。
- ・友好交流に関連する事業の協力を努める。

（6）成果

・友好交流協力覚書に基づく幅広い分野における交流に向けて、両区の情報交換や認識の共有を図った。

・今後具体的な交流の検討に当たっては、中山区として、台北市の他の地域との広がりのある交流につなげていくことも視野にあるとの考えが示された。

・現地で開催されているアニメイベントに、今後中野区として出展を検討してはどうかとの提案があった。

2 ソウル特別市陽川区による来訪

(1) 目的

「東京2025デフリンピック」の開催に合わせ、陽川区庁長らが中野区を来訪することを契機として、姉妹都市提携している陽川区と中野区の今後の交流について、情報・意見交換を行う。

(2) 中野区への訪問日程

2025年11月19日（水）

(3) 来訪者

陽川区庁長、陽川区議会議長職務代理（副議長）ほか通訳を含め計11名

(4) 内容

中野駅再開発施設の視察、中野区関係者との懇談、中野区議会訪問、中野区役所視察、デフリンピック応援中野区実行委員会による区民の集い及び交流・歓迎会への参加

(5) 成果

- ・姉妹都市提携15周年を迎え、今後も交流を継続する。
- ・意見交換等を通じて「まちづくり」や「子ども・教育」に対する陽川区側の関心が高いことが分かり、そのような分野での具体的な交流の可能性を見出すことができた。

3 今後の海外都市との交流のあり方について

(1) 背景

- ・区は、北京市西城区（友好区関係）、ソウル特別市陽川区（姉妹都市関係）、ニュージーランドウェリントン市（子ども友好交流）との既存の交流に加え、台北市中山区との新たな交流を進めていく予定である。
- ・基本計画（素案）において「中野の特色を生かした、また政策課題への対応につながる海外都市との新たな交流を創出していきます。また、子どもの海外都市との交流事業をはじめとした国際交流や多文化共生事業の充実を図ります。」としている。
- ・区内の外国人人口はこれからも増加傾向にあることから、多文化共生を推進していくうえでは、交流を通じて区民の国際理解を更に深めていく必要がある。
- ・各海外都市とのこれまでの交流の歴史や経緯、相手国の文化は重要である一方、区や社会を取り巻く状況は交流を始めた当初に比べて変化しており、時代やニーズに即した国際交流のあり方や必要性を模索し、再構築していく必要がある。

(2) 海外都市との交流の基本的な考え方

ア 区民に還元される交流

住民同士の交流につながる形の交流を模索・推進する。特に、子育て先進区の実現を目指す中野区としては、次世代を担う子どもたちの体験や学びにつながる交流を推進する。

イ テーマ性を持った交流

双方の自治体の興味関心が高い事項や共通する政策課題をテーマとした交流を図り、区の政策課題の解決につなげていく。また、アニメをはじめとする中野区の特色を生かした交流を進め、区の魅力を発信するとともに新たな交流を創出していく。さらに、経済交流につなげていくことも視野に入れる。

ウ 効果的な交流

代表団等による交流都市への訪問という形式にこだわらず、オンラインの活用による協議や

調整を積極的に図り、その結果に基づいた交流を進めていく。この際、ア及びイの視点により適宜見直しを図り、効果的な交流の実施につなげていく。

(3) 各自治体との交流

ア 北京市西城区（１９８６年～友好区関係）

（ア）交流の状況

- ・代表団の受入れは、２０１８年以来行っていない。行政団による訪問は２０１６年が最後。（２０２１年に友好区関係締結３５周年記念交流をオンラインにて実施）
- ・中野区少年軟式野球団との親善試合が盛んであったが、西城区側でチーム編成困難のため、再開は難しい状況。
- ・２０２６年度は友好区関係締結４０周年を迎える。

（イ）今後の交流のあり方

友好区関係締結４０周年を機に、これまでの交流を振り返る一方で、相互の代表団の訪問や式典、限られた関係者による交流だけでなく、子どもたちの交流などテーマ性を持った未来志向の交流を実施できないか打診していく。

イ ソウル特別市陽川区（２０１０年～姉妹都市提携）

今後の交流のあり方については、姉妹都市提携の内容を基本としながら、双方の自治体における課題を共有し合い、市民レベルでの交流などの双方で共通する課題をテーマとした交流を実施できないか、協議を行っていく。

ウ 台北市中山区（２０２５年～友好交流協力覚書）

今後の交流の考え方については、今回の来訪における覚書の内容協議に基づき、具体的な交流に資する訪問の検討を行っていく。さらに、日頃から本格的な交流の実現に向けた実務レベルでの意見交換や協議を進められるよう、関係性の構築に努める。

エ ニュージーランド・ウェリントン市（１９８５年～当初は友好教育交流）

（ア）交流の状況

- ・２０２４年に中野・ウェリントン友好子ども交流事業を視察するとともに、ウェリントン市との交流を図るため、表敬訪問、現地視察等を実施した。
- ・海外の学校との交流を推奨しているものの、学校毎の交流は、各学校の自主性を尊重している姿勢であることから、今後の交流に当たっては、ウェリントン・中野教育協会（WNE S）との十分な対話や協議が必要である。
- ・WNE Sからは長期的に中野区との交流をさらに拡大できないかとの意向が示されている。

（イ）今後の交流

- ・友好子ども交流事業について、現在はホームステイの受け入れを前提としているが、受け入れが難しい家庭もあり、体験機会の格差につながっている。このため、ホームステイの受け入れを前提としない、交流への参加に意欲のある子どものための参加枠を別途設けるなど、双方における拡充に向けた検討を行い、実現を図る。
- ・お互いの文化や生活の紹介など、子ども同士が海外を身近に感じられる取組の一つとして、

オンラインなどを活用した学校同士の交流について、教育委員会とも連携しながら実現に向けて検討を進める。